

推薦調書（実装部門）（注1）

表彰区分	指定都市・中核市・施行時特例市等	推薦都道府県	佐賀県
地方公共団体名	佐賀市		
取組名称	SAGAスマート街なかプロジェクト		
連携自治体、企業、団体等	一般社団法人コード・フォー・ジャパン		
デジタルを活用した取組の概要 （デジタルを活用した取組の全体概要と解決する個別課題の具体的内容）	（種類）（注2）	①	（左記が①の場合 の分野） 観光 （街づくり）
	<p>【デジタルを活用した取組の全体概要】</p> <p>➤本市の中心市街地をAI/IoT等のデジタル技術やデータの利活用を通じ、来街者の利便性を向上させ、過ごしやすい街を共に創っていきこうという実証プロジェクト（令和3年度～）</p> <p>【実施に至る経緯・動機】</p> <p>➤令和6年度開催の国スポ・全障スポ（SAGA2024）や“人中心”の居心地が良く歩きたくなる空間づくりを目指し、本市における交流人口（来街者）のニーズを取り込む受け皿を創出するため、佐賀駅を中心として各拠点エリアをつなぐ、街の“南北軸”の強化が求められている。</p> <p>➤本市では「中心市街地活性化基本計画」の基本方針に基づき、中心市街地の中心軸「中央大通り」の活性化に向けた取組を推進しており、令和3年度には当エリアの目指すべき将来像（未来ビジョン）を官民連携により策定した。</p> <p>【解決する課題の具体的内容】</p> <p>➤中心市街地の人の流れ（回遊・消費行動）を定量的に把握するため、中心市街地通行量調査（年間4日間12か所）を実施している。平成23年度以降は7万人程度で推移する中、近年はコロナ禍の影響により5万人程度に減少している。</p> <p>➤このため、佐賀駅を起点として中心市街地に人の流れを生み出す方策が求められることから、デジタル技術を活用することにより、時宜にかなったデータ取得や来街者の回遊・消費行動を促進する取組を効果的・効率的に展開する。</p> <p>○様々なデータを取得・整理し、組み合わせ、新しい情報価値を創出 →多機能型情報メディア（AIカメラ等を搭載したデジタルサイネージ）、データ連携基盤（都市OS）、データ閲覧ダッシュボードシステムの構築 等</p> <p>○共創型プログラムの推進（シビックテックの実践） →SNS等を活用した情報発信、アイデア募集フォームの実装、市民参加型ワークショップの開催 等</p>		

<p>デジタルを活用した取組による成果（成果がわかるデータ・数値）</p>	<p>【取組のアウトプット】 ○ワークショップの参加者数（延人） [R4] 100 [R5] 100 ○本プロジェクトをフィールドとしたビジネスモデル実証サポート事業 参画者数（者） [R4] - [R5] 3（※令和5年度から実施予定）</p> <p>【取組のアウトカム】 ○中心市街地の通行量（万人） [R3] 5.2 [R4] 7.1 [R5] 8.0</p> <p>【総合的なアウトカム】 ○中心市街地の地価（万円/㎡） [R3] 11.6 [R4] 11.7 [R5] 11.8 ○中心市街地の居住者数（千人） [R3] 8.8 [R4] 9.3 [R5] 9.4</p> <p>※令和4年度実装のため、「目標値」を主に記入</p>
<p>本取組の特徴的な点やデジタルの活用において工夫した点</p>	<p>➤プロジェクトの特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スマートシティやスーパーシティといった取組が全国的に広がる中、「中心市街地の活性化」の分野から小さくはじめ、エリアの実態やニーズに適応した取組を展開する。 ○デジタル技術の導入ありきではなく、何をどのように活用していくかを、市民や来街者と共に考え、共に創る取組を同時に展開する。 <p>➤一般社団法人コード・フォー・ジャパン (Code for Japan) との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「SAGAスマート街なかプロジェクトの推進に関する協定」の締結（令和4年3月30日） <ul style="list-style-type: none"> ・シビックテックを実践し、先進団体の取組を支援している Code for Japan と連携協定を締結した。 ・Code for Japan が有するノウハウや全国的なネットワークを提供してもらい、利便性の高い中心市街地を実現する。
<p>今後の展望</p>	<p>➤令和4年度：プロジェクトの自走化に向けた「実行計画」の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ○持続可能なプロジェクトへの進展に向けて、令和5年度以降の「アクションプログラム」を構築する。 <p>➤令和5年度（予定）：アクションプログラムに基づくプロジェクトの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○民間事業者等によるビジネスモデルの実証支援 ○蓄積データに基づくデータ予測モデルの作成 等

「SAGAスマート街なかプロジェクト」概要図

これから目指す「街づくり」

ペDESTリアンデッキ
SAGAアリーナ
佐賀駅前交流広場
ARCS (くすかぜ広場)
佐賀城内エリア

サンライズストリート (市道三溝線)
佐賀駅前周辺地区
佐賀駅バスセンター
中央大通り

国スポ・全障スポ (2024年度開催) “人中心”の居心地が良く歩きたくなる空間づくり

SAGA 2024
国スポ・全障スポ 新しい大会へ。

交流人口 (来街者) のニーズを取り込む受け皿の創出

佐賀駅を中心として SAGAサンライズパークから佐賀城公園までの街の“南北軸”を力強く!

中心市街地の活性化に向けて

「基本方針」

住む人を増やす 来る人を増やす

住む人・来る人に街を歩かせる

目的をもって街に来る人を増やす

住む人・来る人にできる限り長く街を歩いてもらう

中心市街地の活性化 “エリアの価値”の向上

中央大通りの未来ビジョン (2021年度策定)

佐賀の「次世代」の成長とともにある「中央大通り」へ!

エリアA 街なかリーディングエリア
街なかの魅力を最大限に引き出す

エリアB 街なかリビングエリア
暮らしの質を向上させる

エリアC 街なかネットワークエリア
人と人がつながる

1. 子どもが自由に楽しく遊びが楽しめる空間
2. 子どもが家族と楽しく交流できる空間
3. 子どもが多世代の交流から多様性を学び習得できる空間
4. 子どもが大人になっても挑戦・活躍できる空間
5. 子どもがいつでもどこでも成長への誇りと夢を正れない空間

SAGAスマート街なかプロジェクトとは

中心市街地の活性化 × SAGAスマート街なかプロジェクト

住む人・来る人に、できる限り長く街を歩いてもらう
～歩いて楽しめるウォークアビリティ (来たい・住みたい・働きたい街の形成)～

AI、IoTなどのデジタル技術

佐賀市の中心市街地をAI/IoTなどのデジタル技術やデータの利活用を通じ、来街者の利便性を向上させ、過ごしやすい街を共に創っていくという実証プロジェクトです。(2021年度～)

地元IT系企業3社とNPO法人1団体を中心として、様々なサポート企業・団体、アドバイザー(学識者等)とチームを組んで推進中!

SAGA SMART MACHINAKA LAB

「SAGAスマート街なかプロジェクト」概要図

プロジェクトの特徴

このプロジェクトでは…

- ① スマートシティやスーパーシティといった取組が全国的に広がる中、「中心市街地の活性化」の分野から小さくはじめる、エリアの実態やニーズに適応した取組を展開します。
- ② デジタル技術の導入ありきではなく、何をどのように活用していくかを、市民や来街者の皆さんと共に考え、共に創る取組を同時に展開します。



5

プロジェクトの内容

～中心市街地の様々なデータを取得・整理し、組み合わせ、新しい情報価値を生み出します～



6

・多機能型情報メディア



【主な機能】

- ◆ **情報発信 (デジタルサイネージ)**
 - ・街なかの店舗やイベント情報
 - ・近隣バス停の時刻表
 - ・リアルタイム気象情報 など
- ◆ **データ収集**
 - ・人流データ (AIカメラ)
 - ・環境データ (センサー)
- ◆ **公衆無線LANスポット**

多機能型情報メディアのコンテンツは、ワークショップなどを通して、市民、事業者、来街者の皆さんと共に考え、創っていきます！



中央大通り沿線の3か所に設置

7

・データ閲覧ダッシュボードシステム

データの見える化 (データビジュアライズ)

- ・このプロジェクトでは、様々なデータをデータ連携基盤 (都市OS) に蓄積していきます。
- ・これらのデータは、そのままの状態では分かりにくいですが、グラフや地図上に“見える化”することで、市民や街なかの事業者の皆さんに新たな気づきを与えたり、行動・活動のヒントとしたりすることができます。



データ閲覧ダッシュボードのイメージ

8

「SAGAスマート街なかプロジェクト」概要図

・共創型プログラム ～みんなで考え、みんなで創るプロジェクトに～

公式ウェブサイトやSNSを活用した情報発信

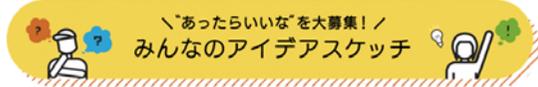
佐賀市のビジョン、プロジェクトの概要説明、進捗状況の発信 など



<https://smart.saga.jp>

アイデア募集フォームによる市民参画の促進

ウェブサイト内に「アイデアボックス」機能を実装し、街なかにおけるデジタル技術活用に向けたアイデアを広く募集



9

Code for Japanとの連携

SAGAスマート街なかプロジェクトの推進に関する協定 (2022.3.30)

- オープンデータやデジタル技術を活用して、市民と行政が協働して社会課題を解決する取組である「シビックテック」を実践し、先進団体の取組を支援している「Code for Japan」と連携協定を締結しました。
- Code for Japanが有するノウハウや全国的なネットワークを提供いただき、みなさんにとって利便性の高い中心市街地を実現します。



<https://www.city.saga.lg.jp/main/79175.html>



11

・共創型プログラム ～みんなで考え、みんなで創るプロジェクトに～

誰もが楽しみながら参加できるワークショップ

「基本編」と「応用編」の2段階で構成し、毎月1回ペースで開催しています！

デジタル技術を街なかに実装するだけでなく、市民や事業者のみならずと一緒に、ICTやデータの使い方を考えたり、街の未来を描いたりしながら、プロジェクトを推進していきます。



デジタル技術と街づくり座談会

デジタル技術を学び、街なかへの実装を考えます。



アイデアソン

皆さんとICTやデータ活用のアイデアをまとめます。



マッピングパーティ

街なかのデジタル地図を皆さんと充実させます。



10

今後の展望

プロジェクトの自走化に向けた「実行計画」の策定 (2022年度中)

実証段階からの発展(持続可能なプロジェクトへの進展)に向けて、2023年度以降の具体的な運営方法、収支計画、市民参画のあり方などを検討し、「アクションプログラム」を構築します！



サガマチ・ランデブー (2020年度～)

来街者のニーズ調査 × 街なか回遊・消費行動の促進

さがまちで使える
+500円クーポンをGETしよう!

【関連プロジェクト】これまでに培ってきた市民、来街者、街なかの事業者のみならずの“つながり”を最大限に活用します！

登録会員：3,272人
協力店舗：112店舗 (2021年度末時点)

<https://saga-machi.jp>

■取組の成果指標 ～中心市街地の活性化～

- 【取組のアウトプット】
- ワークショップの参加者数
 - ビジネスモデル実証サポート事業参加者数
- ➔【取組のアウトカム】
- 中心市街地の通行量
- ➔【総合的なアウトカム】
- 中心市街地の地価
 - 中心市街地の居住者数

12